

高齢者を年齢で定義するのは適切か：社会学の立場から

著者	古谷野 亘
会議概要（会議名，開催地，会期，主催者等）	第29回日本老年歯科医学会学術大会 学術用語シンポジウム「高齢者の定義 75歳は妥当か？ 老年歯科医学からの検討」
発表年月日	2018-06
URL	http://id.nii.ac.jp/1477/00003819/

高齢者を年齢で定義するのは適切か ―― 社会学の立場から

古谷野 亘

(聖学院大学 人間福祉学部長・心理福祉学部長・教授)

第 29 回日本老年歯科医学会学術大会

学術用語シンポジウム「高齢者の定義 75 歳は妥当か? 老年歯科医学からの検討」

2018.6.

社会生活の加齢変化は、理論的には社会的地位と役割の変化である。地位と役割は大まかには年齢階梯に沿って配分されているので、特定の年齢の人が特定の地位・役割の変化を経験することが多い。しかし、地位・役割の変化はそもそも年齢に依拠する事柄ではないから、暦年齢で「老いた人」の定義をするには本来無理がある。にもかかわらず、現代社会では年齢で「老いた人」の定義をするのが当然とされ、一定の年齢に到達したことをもって地位・役割の変化が引き起こされることすらある。「老いた人」を「高齢者」と言い換えるようになってからは、特にその傾向が顕著である。

制度を設計する際には年齢を指標にせざるをえないかもしれないが、年齢は本来、社会生活の指標としてはきわめて不十分なものでしかない。超高齢社会にあって目ざすべきなのは、暦年齢にかかわらず、希望と能力に応じて参加と社会的活動を可能にするエイジフリーな社会の実現である。

高齢者を年齢で定義するのは適切か — 社会学の立場から —

聖学院大学 古谷野 亘

1

◆ 社会生活の面での老い

人は心身の老いと同時に社会生活の変化を経験し、「老いた人」になっていく。

2

◆ 社会生活の面での老い

人は心身の老いと同時に社会生活の変化を経験し、「老いた人」になっていく。

社会生活の加齢変化は、理論的には、社会的地位と役割の変化としてとらえられる。

3

◆ 社会的地位と役割

人は多くの集団や組織に所属し、そこで何らかの位置づけ（社会的地位）を得て、その地位にふさわしい行動（社会的役割）をするように期待されている。

4

◆ 社会的地位と役割

人は多くの集団や組織に所属し、そこで何らかの位置づけ（社会的地位）を得て、その地位にふさわしい行動（社会的役割）をするように期待されている。

ある人の社会生活のありようは、その人がどのような社会的地位にあり、どのような役割を与えられているかによって影響される。

5

◆ 地位・役割の変化

地位と役割は年齢に応じて社会的に配分されている。

そのため、特定の年齢の人たちが、特定の地位・役割の変化と、それにともなう社会生活の変化を経験しがちである。

6

◆ 地位・役割の変化

大きな地位・役割の変化は、社会生活を大きく変える人生の節目の出来事（life event）になる。

7

◆ 加齢にともなう地位・役割の変化

成長・発達の過程で経験する人生節目の出来事は、新しい地位・役割の獲得であることが多い。他方、人生の後半で経験する人生節目の出来事は、地位・役割の喪失であることが多い。

8

◆ 職業生活からの引退

「老後」の始まりを告げる人生の節目の出来事。その内容は職業上の地位・役割の喪失である。

9

◆ 職業生活からの引退

● 江戸時代の殿様の場合

藩主の地位と役割を世継ぎに譲り、隠居して、大邸という新しい地位・役割を手に入れた。殿様の隠居は、本人の心身の状態や希望、藩の事情によって起った。暦年齢とは基本的には無関係。

10

◆ 職業生活からの引退

● 現代のサラリーマンの場合（定年退職）

会社内での地位・役割を失う。本人の心身の状態や希望とは基本的には関わらず、会社の都合によって起る。暦年齢によって地位・役割の変化が起される。

11

◆ 職業生活からの引退

隠居した殿様
退職サラリーマン

12

◆ 職業生活からの引退

隠居した殿様
退職サラリーマン

暦年齢

13

◆ 職業生活からの引退

隠居した殿様 → 結果的に高年齢
退職サラリーマン → 暦年齢で退職

暦年齢

14

◆ 暦年齢

非常に poor な指標。
本来は大まかな目安にしかない。

15

◆ 暦年齢

非常に poor な指標。
本来は大まかな目安にしかない。
「老いた人」であるかどうかは暦年齢によって
は決らない。

16

◆ 暦年齢

非常に poor な指標。
本来は大まかな目安にしかない。
「老いた人」であるかどうかは暦年齢によって
は決らない。
それなのに、現代社会では暦年齢で「老いた
人」の定義をし、暦年齢で「老いた人」を作る
ことが広く行われている。

17

◆ 暦年齢

「老人」を「高齢者」と言い替えるようになっ
てからは、暦年齢の優位が確立した。

18

◆ 暦年齢

「老人」を「高齢者」と言い替えるようになってからは、暦年齢の優位が確立した。

「老いた人とはどういう人か」という問が「高齢者は何歳からか」という議論にすり替えられた。

19

◆ 暦年齢

「老人」を「高齢者」と言い替えるようになってからは、暦年齢の優位が確立した。

「老いた人とはどういう人か」という問が「高齢者は何歳からか」という議論にすり替えられた。

… もともと日本人は暦年齢にこだわりすぎ。

20

◆ 暦年齢

「老人」を「高齢者」と言い替えるようになってからは、暦年齢の優位が確立した。

「老いた人とはどういう人か」という問が「高齢者は何歳からか」という議論にすり替えられた。

「老いた人」の定義は難しいが、
「高齢者」の定義は簡単。

21

◆ 暦年齢の用途

制度の対象となる人の範囲を決める際に、暦年齢を使うことは今後とも必要であろう。

22

◆ 暦年齢の用途

制度の対象となる人の範囲を決める際に、暦年齢を使うことは今後とも必要であろう。

しかし、それは単なる目安であるにすぎないことを忘れないようにしよう。

23

◆ 暦年齢の用途

暦年齢は目安であるにすぎないから、zoneと考えて弾力的に運用し、当人の選択を可能にすることもできる。

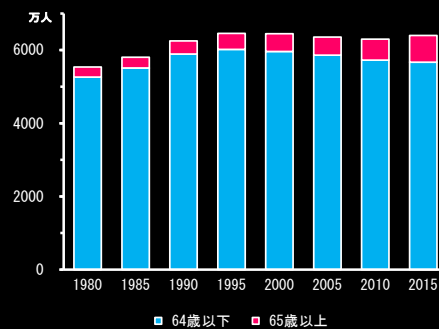
暦年齢は変えられないが、社会生活の加齢変化は個々に制御・選択可能である。

24

たとえば、
年金受給開始年齢の弾力化
高年齢者雇用確保措置

25

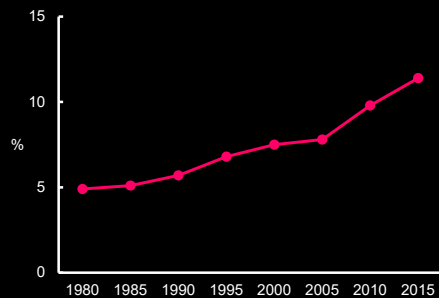
就業者数の推移



総務省：労働力調査

26

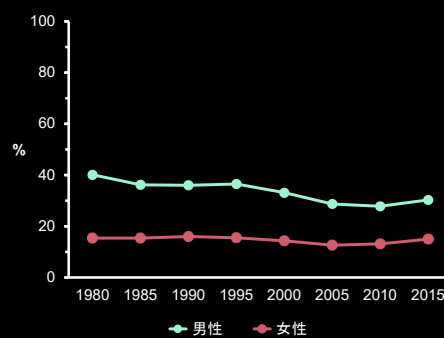
就業者に占める65歳以上就業者の割合



総務省：労働力調査

27

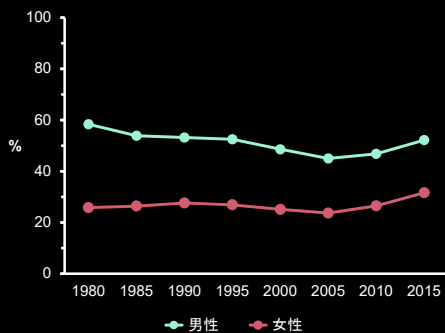
65歳以上の就業者率



総務省：労働力調査

28

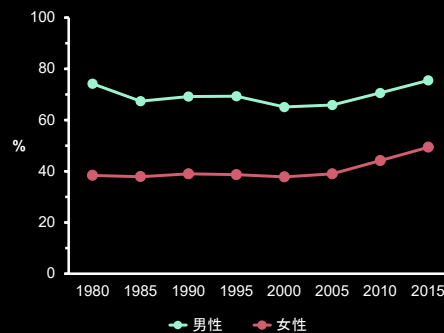
65～69歳の就業者率



総務省：労働力調査

29

60～64歳の就業者率



総務省：労働力調査

30

◆ エイジフリーな社会を目指して

人生の節目の出来事を先送りする人が増えたということは、節目の出来事の出来が単純に暦年齢によって決るものではないということの証拠でもある。

31

◆ エイジフリーな社会を目指して

人生の節目の出来事を先送りする人が増えたということは、節目の出来事の出来が単純に暦年齢によって決るものではないということの証拠でもある。

暦年齢にとらわれずに、能力と希望のある人には様々な機会が開かれる社会の実現を目指すべきである。

32

◆ エイジフリーな社会を目指して

人生の節目の出来事を先送りする人が増えたということは、節目の出来事の出来が単純に暦年齢によって決るものではないということの証拠でもある。

暦年齢にとらわれずに、能力と希望のある人には様々な機会が開かれる社会の実現に向かうべきである。

→ 超高齢社会の課題

33

◆ 検討を要する課題

年金受給開始年齢の弾力化

→ 支給額の増減率は適切か

高年齢者雇用確保措置

→ 60歳以降の労働条件は適切か

34

社会生活の加齢変化の場合、それを遅らせるのが望ましいとはかぎらない。

35

社会生活の加齢変化の場合、それを遅らせるのが望ましいとはかぎらない。

→ 個人にとっても

36

社会生活の加齢変化の場合、それを遅らせるのが望ましいとはかぎらない。

→ 個人にとっても
社会にとっても

37

まとめ

38

まとめ

- 社会的には、加齢にともなう社会的地位と役割の変化がエイジングであり、特定の社会的地位と役割の変化を経験した人が「老いた人」である。

39

まとめ

- 社会的には、加齢にともなう社会的地位と役割の変化がエイジングであり、特定の社会的地位と役割の変化を経験した人が「老いた人」である。
- 現代社会では暦年齢で「老いた人」の定義をすることが広く行われている。さらに、暦年齢によって地位・役割の加齢変化が起こされることも少なくない。

40

まとめ

- 暦年齢は非常にpoorな指標で、本来は大まかな目安にしかない。

41

まとめ

- 暦年齢は非常にpoorな指標で、本来は大まかな目安にしかない。
- 制度を設計する際に暦年齢を基準とせざるを得ないこともあろう。しかし、それは目安であるにすぎないのだから、弾力的に運用して、当人の選択を可能にすることができる。

42

まとめ

- 暦年齢は非常にpoorな指標で、本来は大まかな目安にしかない。
- 制度を設計する際に暦年齢を基準とせざるを得ないこともあろう。しかし、それは目安であるにすぎないのだから、弾力的に運用して、当人の選択を可能にすることができる。
- 超高齢社会で目指すべきことは、エイジフリーな社会の実現である。

43

まとめ

- 社会生活の加齢変化の場合、それを遅らせることが望ましいとは限らない。

44

高齢者を年齢で定義するのは適切か — 社会学の立場から —

聖学院大学 古谷野 亘

45